

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年2月28日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4673400091
法人名	社会福祉法人曙福祉会
事業所名	グループホーム永喜村
所在地	鹿児島県日置市吹上町永吉14145番地 (電話) 099-299-3480
自己評価作成日	平成30年1月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成30年2月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム永喜村は、平成23年7月に喜楽奈里と村長の家の2つのグループホームが合併して永吉に開設した。開設当初からの職員も多く、離職率も低い。そして、地域との繋がりを大切にしている。敷地内には児童クラブもあり、交流の場も多くある。近隣には、小学校、商店や理髪店、病院、お寺などあり、馴染みの関係の中で生活できている。地域交流においては、夏祭りや文化祭、清掃作業や生き生きサロン、月に1回、定期的なボランティアの方々が3組町内外から来て頂いている。年に2回ある春と年末の市では、出店を見て回ることはもちろん、自分たちも出店し、特に永喜村カフェは恒例となり、手作りのケーキや団子、お漬物、飲み物などを来られた方に無料で提供している。夏に開催している七夕ひろばでは、児童や地域の方、ご家族に声を掛けて、カフェは勿論、ミニ七夕作りや生花コーナー、今回は介護予防体操も取り入れ、また児童にはかき氷や射的、ボンボン釣りなどをして楽しんで頂いている。家族会は年に2回実施しているが、ご家族の出席率も高く、永喜村の運営や方針に対して常日頃から、ご理解とご協力をして頂いている。地域と家族の皆さんが永喜村を支えて下さっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○職員全員で作り上げた理念に加え、「笑顔、幸せ、優しさ、出会い、人生」をキーワードとした職員指針と年度目標を掲げ、目に付きやすい場所に掲示することで意識付けを図っている。本年度は、地域貢献や職員の腰痛予防を年度目標としており、地域とのよりよい関係の構築や職員の介護体制や支援方法の確認などを話し合い、日々の支援につなげている。

○重度化や看取りに関しては、マニュアルを備えるとともに積極的に外部研修に参加することで知識や技術の向上を図っている。入居時に「重度化した場合における対応にかかる指針」を説明し同意を頂き、入居後も状態の変化や家族の思いの変化を汲み取りながら、指針の確認を繰り返し行っている。

○運営に関する職員の意見の反映については、日常会話の中や申し送り、職員会議でも意見を聞くほか、年度末に働き方や意見を確認するアンケートを取り、個別面談も随時実施し対応している。また、研修会への参加については、参加したい研修の要望を尋ね参加につなげたり、研修に参加する職員が偏らないよう配慮している。休日の取得や異動についても、職員の意見が反映されるよう可能な限り対応している。

○身体拘束をしないケアについては、職員会議の中で繰り返し確認しているところであり、特に言葉による拘束については、気付いた時にその都度声を掛け合うなど、お互いに注意し合う関係ができています。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念は職員皆で意見を出し合いできあがった。地域の中で、様々な行事に参加している。また、理念を目に付く場所に掲示したり、年度初めに理念の確認をしている。	職員全員で作上げた理念を平成23年に一部文言を見直し、平成29年には新たに職員の行動指針を追加したほか、年度目標も掲げている。管理者は「笑顔」を日々の生活に多く見られるようにと考え、理念入りのTシャツを作成するなど事業所全体で理念の共有と実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃活動や、回覧板を利用者と一緒に行っている。地域行事（夏祭り、文化祭、小学校の運動会、歳の市など）にも積極的に参加している。	地域の夏祭りや文化祭に参加するほか、年2回開催される歳の市には「永喜村カフェ」を開き、手作りケーキや漬物等を提供し地域住民と交流している。また、小学校の運動会への参加や中学生の職場体験、高校生の実習の受け入れなど地域の学生との交流や教育機関とのつながりも強い。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	民生委員の方が施設見学に来られた際には、施設の概況や利用者への接し方について話をしたり、あけぼの広場や七夕広場でも、相談コーナーを設けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状は勿論の事、災害対策やゲスト（消防署の方、婦人会長、校長先生など）を招き、意見交換を行っている。出た意見については真摯に受け止め、改善出来るよう努めている。また、スタッフも参加し共有している。	会議には家族や自治会長、地域の有識者や福祉課の職員らが参加され、事業所の活動内容の報告や意見交換など活発に行われている。また、年に数回、茶話会も兼ね利用者も参加しており、交流を図ることで事業所の実情や取り組みの理解につながっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議や法人の歓送迎会、忘年会、あじさい祭、あけぼの広場、敬老会などに招待している。また、要介護認定の更新手続きやその他の事務手続き及び行事の案内等で支所に出向いた時など、担当者と直接話しをしている。	行政職員とは、運営推進会議や介護手続き等書類の提出時に面談するほか、法人の歓送迎会や忘年会にも声をかけ参加して頂いている。また、グループホーム協議会や行政主催の研修会に参加するなど日頃から行政との関わりは深く、良好な関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	合同ミーティング時に、職員全体で身体拘束がないか、それにあたらぬかの確認を行っている。委員会もあり、3ヶ月に1度研修を行っている。玄関の施錠についても、安全の確保の為、時間帯を設けて、必要以上の施錠がないよう取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会による勉強会を年に4回程度実施し、言葉による拘束の有無や職員の言動が拘束にあたらぬかを繰り返し話し合い確認している。日頃から見守りを徹底するとともに地域住民にも見守りをお願いするなど、利用者にとって抑圧感のない自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会などにも参加し、職員全員にミーティングの際に報告している。委員会もあり、勉強会をしたり、利用者に行っていないか職員同士確認をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	合同ミーティングで勉強会を行ったり、施設外研修でも学んで、それを他職員に報告している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に、文書で分かり易く説明している。不安や疑問が無いかを尋ね、理解や納得して頂けるように配慮している。改定時には、家族会の際に説明をして理解して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情や相談を受け付けると、専用品紙に記入し、全職員に報告し、解決策や結果などを明記してミーティングで報告している。また、家族会やケアプランの面談時に意見や要望を伺うようにしている。	思いを上手く表せない利用者の意見は日常の言動から汲み取るとともに、家族の意見は来所時に聞き取るようにしている。意見が出しやすいよう毎月のホーム便りを送付したり、来所時は手作りケーキや漬物でもてなすなど和やかな雰囲気努めることで、会話が弾むように心がけている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングや、日常会話の中で様々な意見や提案を聞き、可能なことは直ぐに反映したり、努力をしている。年度末には、意見や要望を代表者に話す機会を設けたり、用紙に記入して提出している。	日頃から管理者と職員とは意見の言いやすい関係ができており、その都度、業務改善に向けた話し合いがなされるほか、アンケートの提出や個別面談も実施している。また、研修会への参加や資格取得のための配慮など、法人として最大限に支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個々に働く時間や休み希望など、ライフスタイルに合わせて働ける環境が整っている。そして、それぞれの得意分野が仕事に生かされている。(料理、レク、介護など)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内研修もあり、なるべく職員全員が参加できるように日程調整をしている。年度計画の中に研修があり、それぞれ職員に振り分けて職員が学べる機会を設けている。自主勉強の発表もあり、知識向上に努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>研修の際や、研修後の懇親会などを通して情報交換を行っている。また、他施設事業所を招いての研修（ノーリフト研修）もあり、サービスの質の向上に繋がっている。</p>		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人や家族から聞き取りを行ったり、他事業所からの提供書を参考にしながら、困ったり不安なことがないか、要望がないかの把握に努めている。様々な場面で、笑顔での声掛けに配慮している。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>面会や電話などで、本人の様子を伝えたり、面会時、お茶を持って行き、少しでも話しをして、関係を築いている。ケアプランの面談時、困っていること、不安なことなど要望を聴いている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早く新しい生活に馴染んで頂けるよう、丁寧な声掛けを心がけ、安心して生活できるよう環境作りに配慮している。アセスメントを事前にとり、ケアプランに反映した上でサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事（洗濯物、お盆拭き、野菜の下ごしらえ、盛り付けなど）やレクリエーションを一緒に楽しんでいる。年間通して行事も沢山あり、利用者に教わることもある。一緒にすることで良い関係が生まれている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と本人の関係性などを把握して対応している。面会時には、現状や嬉しい出来事などを伝えたり、月に1回お手紙で様子をお知らせしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけの病院、お店、お寺、神社など、本人が通っていた場所に今まで同様、行けるように支援している。地域行事にも積極的に参加して、知人の方と会われて喜ばれる時もある。	入居前の馴染みの人や場との関係をアセスメントに記録し、入居後も関係が途切れないよう美容室や商店、お墓参りなど家族と職員が協力し支援している。また、電話や代読を含む手紙の取り次ぎ等についても利用者の望む支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性もあるので、できるだけトラブルが無いよう、食席や外出時の配車、入浴の順番などに配慮している。話すことや集団に入るのが苦手な利用者に対しては、寄り添ったり、レクリエーションなどを通して、孤立しないように配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、家族さんからの再度申込みや相談を受け、可能な限り応じている。退所になった利用者の面会に行き話を聴いたりして、出合いを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	これまでの生活を利用者、家族に聞きながら、希望に沿えるよう1つ1つ選択して頂いている。(起床、就寝時間、嗜好品、趣味など)ケアプランの見直しや更新の際、本人、家族に希望や要望を聞いて、それに沿うようにしている。	本人の思いや希望を初回アセスメントの際に念入りに聞き取るとともに、入居後も日々の行動や表情から汲み取るように努めている。把握した内容は職員が自由に記入できる連絡ノートを活用し情報の共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に事前訪問(面談)を行い、本人、家族、ケアマネ、使用していた施設などからの情報提供をして頂き、今後の生活に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の流れを通して、変化のある利用者にも目を向け、少しの変化でも、日勤者から夜勤者への引継ぎ(申し送り)を確実にしている。日々の家事やレクリエーションなどを通して、できることの把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状態変化やケアプラン更新、見直し時に、本人、家族から希望、要望を聞き、職員全体でケアカンファをしている。ケアカンファでは、日常生活を送る上での課題や問題点を出し合いプランに反映している。主治医の意見も伺い、更新時、家族と面談を行っている。	利用者と家族の意向を基に毎月のカンファレンスや定期モニタリング、主治医の意見も参考にしながら介護計画を立てており、病状等に変化がみられた場合には、随時、介護計画を見直し現状に即したものに作り直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った記録を心掛け、ミーティングや申し送り時に状況報告をしている。気付きや工夫を行った際には、連絡帳に記載して情報共有している。ミーティング時には、利用者の状況を職員で確認しあい、プランに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態変化により、食事形態をその都度変更したり、医療については必要に応じて、通院援助や往診などの依頼をしている。また、本人や家族のニーズを見極め、様々な手段を考えて、提供出来るようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お寺参りや初詣、理容室や商店、市や散歩に出掛けたり、運動会や学習発表会、文化祭や夏祭り、いきいきサロンの交流などに参加。地域の方も、顔見知りが多く、理解して下さりとても協力的である。地域資源を活用して楽しく暮らせている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を継続し、本人、家族、医師との連携を密に図っている。入所前からのかかりつけ医へ受診する事で、本人の事を主治医も理解しており、迅速に適切な医療が行えている。	基本的に受診は家族が行うが、体調不良時や医療連携が必要な場合は職員が同行したり、主治医に電話で直接指示をもらうようにしている。また、把握した診療情報は連絡ノートや個人ファイルに記録し、申し送り時に情報を共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルチェックの異常時や転倒やケガ、状態の変化などがあつたら些細なことでも直ぐに看護師に報告し、必要に応じてかかりつけ医に連絡が行くようにしている。オンコール体制も整備されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には職員が面会に行き、経過や退院の目途を聞いたり、状態を聞き早期退院を目指している。往診や健康診断などを通して、関係作りをしたり、病院関係者を法人の行事などに招いて、関係作りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、現時点での重度化や終末期になった際の考えを家族に聞いている。家族会や面談時に再度聞き、重症化した場合、家族の意向を聞き、主治医と連携を図りながら、可能な限りグループホームで過ごせるようにしている。	入居時に「重度化した場合における対応にかかる指針」を説明し同意署名をもらい、入居後も状態に変化がみられた場合等繰り返し確認することで変化する思いに対応している。また、職員の自信につながるよう外部研修にも多数参加し、医療との連携等確認し合うことができた。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の研修を受けたり、全体のミーティングなどで共有している。嘔吐、下痢症があった場合も迅速に対応ができた。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回、火災、水害、地震などを想定した防災訓練を行っている。非常通報装置を押すと、消防だけではなく、地域の方にも連絡が自動で行き、協力して頂ける体制になっている。また、非常時の水や御飯、缶詰を3日分常備している。	年2回消防署や地域住民も参加する災害訓練を実施するほか、不審者訓練や避難場所の確認、コンセントのほこりの点検など毎月自主訓練も実施している。また、昨年6月には地域住民に施設見学に来てもらい、設備の確認等も行った。備蓄に関しては、飲料水や缶詰等食料を約3日分準備し、懐中電灯やヘルメットも備えられている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	羞恥心に配慮した声掛けを行い、トイレにのれんをしたり、消臭剤を使用し周囲の環境にも心掛けている。そして、接遇委員会や職員間で確認しあい、自分のケア、声掛けなどが正しいかを確認、見直しをしている。	年2回程度接遇委員会が中心となり、言葉遣いやトイレの誘導方法、職員間での守秘義務の徹底等についてを確認し合っている。ポータブルトイレは日中など使わない時はシートを被せており、個人カルテについても見えないよう配慮されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行事や外出の参加は、無理強いをせずに参加して頂いている。お茶菓子や着る洋服なども声掛けをしながら選んで頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活スタイルを把握しながら、起きたい時、寝たい時、食べたい時、散歩をしたい時など、本人のペースや生活リズムを大切にしながら、可能な限り希望に沿うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	家族会や誕生会の際に化粧をすると喜んで下さっている。カットやパーマの依頼があればご家族に連絡し、馴染みの理美容室に行かされている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の野菜を頂いた時など、利用者と献立を考えたり、一緒に野菜の下ごしらえや盛り付けなどを行っている。後片付けも、皿洗いや台拭きを一緒に行い、良い関係作りになっている。	献立は法人の管理栄養士が立てているが、食べたいもののリクエストに応えたり、お裾わけを頂いたり、外食に出かけるなど状況に応じて自由にメニューを変更している。また、毎日のおやつや誕生会のケーキなど手作りにこだわり、利用者や家族に大変喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を把握して、栄養、水分の確保が少ない時には、食べられる時に、本人の好む物（レモンティ、生姜湯、プリン、コーヒー、ココアなど）や代替品、栄養剤を準備し、栄養面などに配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	舌ブラシを使用したり、口腔内の洗浄介助をする方もいて、個々に応じた支援が出来ている。本人の力に応じて、介助や見守り、口腔ケアをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日中、夜間の排泄パターンを活かし、トイレの声掛けや誘導を行っている。立位が可能な場合は、無理のない範囲で、難しい場合は職員2名で支援をしている。夜間、ポータブルトイレを使用する事で、自立支援に繋げている。	立位の難しい方でも座位が保てればトイレでの排泄を支援しており、入院中リハビリパンツを使用しているも退院と同時にリハビリパンツを外すなど排泄用具に頼らない方法を話し合い、介護計画に組み込み職員全員で対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	トイレに行かれた際には、腹部マッサージや食事（食物繊維、乳製品、オリゴ糖など）の工夫をしている。毎朝、ラジオ体操を行っている。ドライブも良い刺激になっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	なるべく本人に希望を聞き、声掛けのタイミングに配慮し、湯船に入られるか、湯加減など尋ねながら気持ち良く入って頂いている。湯船では昔話や歌などで気持ちよく入れるよう支援している。どうしても入られない方については、翌日入浴や清拭を行っている。	週3回程度、午前中に入浴している。シャワー浴や足浴等のほか、同性介助の意向にも合わせるなど個人の希望する入浴方法を支援している。また、福祉用具の活用やリフトを備えているため、重度化した場合でも安心して入浴することができている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣を大切にし、落ち着く場所でゆっくりと過ごせるように支援している。昼寝をする時は、好きな曲を流して気分良く過ごせるようにしたり、足が浮腫んでいる利用者には足を高くして休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬変更時には、看護師より報告があり、連絡帳にも記入し職員全員が共有できるようにしている。薬情報は、全職員が確認出来るようにファイル（お薬手帳）に保管してある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の出来ること、得意なことなどを把握し、その場面がある時は、腕前を発揮して頂けるように努めている。時には、教えたり教わったりして良い刺激になっている。(縫い物、野菜の下ごしらえ、踊り、歌、工作など)		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	地域行事や、学校行事、買い物などに出掛けている。季節ならではの行事や見物(桜、コスモス、ソーメン流し、流鏝馬など)にも行かされている。本人が希望されたら、家族に連絡して出掛けられるように支援している。	初詣や花見、海浜公園へのドライブなど日常的に外出するほか、地域の夏祭りや小学校の運動会等地域住民とふれ合う機会も多くある。また、天候のよい日は法人の管理する「喜楽奈自然の森」にお弁当持参で出かけるなど、当日の状況で自由に外出を計画し出かけている。歩行の難しい場合も車椅子やリフト車を利用することで外出を可能にしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人で管理できる方については持って頂いているが、そのことで不安になる場合もある。一緒に買い物に行き、好きなお茶菓子を買われたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族から電話がある時は、本人に声を掛けて代わったりしている。特に遠方の方はそのようにしている。手紙、年賀状も代読をしたりして、利用者から希望があれば、掛けられる様になっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った飾りを利用者で作ったり、季節の花を玄関やテーブルに飾って季節感を感じて頂いている。廊下にはソファを置き、いつでもくつろげる様にして、冬場は廊下や居間に加湿器を使用したり、時間おきに換気をしている。	玄関入口の正面には、近所の方から譲り受けた梅の木が咲いており、来訪者を穏やかな気持ちにさせてくれる。明るいフロアには季節の作品が掲示され、洗面台には観葉植物も置かれ、爽やかさが感じられる。また、換気については、一日に2回行うほか、温湿度計もみながらこまめに喚起、加湿を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子を置いたり、居間にソファを置き、外の花を見たり、景色を見て気分転換を図っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から使用していた物（タンス、仏壇、ベッド、人形、椅子など）を居室に置き、フローリングや畳など、利用者にあった居室作りをし、居心地良く過ごせるように配慮している。また、家族の写真などを置く事で安心する方もおられる。	エアコンとクローゼットが備え付けられ、自宅から持ち込まれたテレビや仏壇、冷蔵庫等により居心地のよい生活を送ることができている。居室は全室掃き出し窓のため、開放的であるとともに災害時等には脱出しやすい構造となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面道具入れは手の届く位置に設置して、本人で出し入れが出来るようにしている。表札は見えやすく確認しやすい場所に設置し、トイレは手すりを増やして、安全に行えるようにして、トイレと大きな字で分かりやすく場所を表示している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない